

所管事務調査報告

本文を抜粋して
掲載しています

総務経済常任委員会

- 視察場所：岐阜県郡上市観光課・ダイナランドスキー場
- 日程：平成22年2月16日～17日
- 視察項目：市のスキー場経営へのかかわり方及びスキー場の経営実態調査

〔概要〕

市内に12ヶ所あるスキー場すべてが民間経営であり、市としての直接的な経営参画は特にしていないとのこと。これは、市が7ヶ村合併してまだ7年目と日が浅く、かつ従来の町村がかかわる出資で発足したスキー場が多いという事情から、市が包括的に経営に参加するところまでいっていない。現在、民営の観光連盟が全体を取りまとめているが、今後ともこのままでもいいらしい。

市の補助は、直営温泉へ2.1億、連盟へ0.5億、イベントに0.4億など、合計3億円となっている。各スキー場は、苦労しながらも経営を続けている状況である。なお、中央の大企業に買収された所が何ヶ所もあり、ダイナランドもそのひとつである。

宣伝は、関西・九州・四国まで合同でキャラバンなどを出すなどして活発に行っているが、まだ効果はあまり出ていない。しかし宣伝はとても必要と考えており、手を抜くとすぐに影響が出るとのこと。

〔特殊事情〕

高速道路が開通して遠隔地からのバス団体客が増えた半面、名古屋・大阪から近くなったために日帰り圏となり、宿泊客が減少した。

〔営業努力〕

夏は有料の山菜狩りを行っている。わらび・こしあぶらなどで、1日に千人ほどの入り込み、ユリ園もあり、7万人の入場者がある。

スキーシーズンはレストランに力を入れ、本格派の味を目指すとともに、新しい郷土料理を考案するなどの努力をしている。場内では女性プロによるDJを常時流しており、好評とのこと。昨年、スノーボードの世界選手権を開いたが、経費がかさみあまり経済効果はなかったとのことである。

(文責 小林 光)



社会文教常任委員会

- 視察場所：滋賀県愛荘町 愛知川図書館・岐阜県高山市 冬季高齢者ファミリーホーム「のくとい館」
- 日程：平成22年1月27日～28日
- 視察項目：愛知川図書館の運営状況等・冬季高齢者ファミリーホーム「のくとい館」の運営状況等

〔愛知川図書館の状況〕

開架面積1,823m²と当町とは比較できないほど恵まれた環境にあり、予算額や職員配置の違いは歴然である。職員は全国公募、館長を含む8人が全員司書有資格者である。

図書館の役割として、文化情報の発信地・交流拠点・地域づくりの活動支援等をコンセプトに、見せる・人と本との出会いの場・展示へのこだわり・人と人の距離・人と本の距離を身近にするなど、心配りが多方面に見られた。

図書館の仕事としてまちづくりを目標とし、富士見町の生涯学習・公民館活動を含んだ取り組みがされている。



〔冬季高齢者ファミリーホーム「のくとい館」の状況〕

高山市山間部は冬期間最低気温-25度、積雪は2m以上もあるという環境で、多くの独居高齢者が厳しい生活を強いられている。「地域の高齢者をどう支援するか」という課題が取り上げられ、冬期間を使用されなくなった教員住宅を利用して集団で過ごす事業が立案された。

じっと耐えていた4ヶ月間を集団で楽しく過ごせる・薪割り等の冬支度の手間がいらなくなった・孤独感の解消・40%を超える過疎地域の高齢者支援・住民同士の親近感の構築など、多くの成果が出てきており、高齢者が暖かく楽しい冬を過ごす場として定着しつつある。

当町でも、寒い冬を孤独に過ごす高齢者が多い。「高齢者が共同で暮らす」という事業は、大変参考になった。

(文責 小林市子 エンジェル千代子)